

平成30年度 「一隅を照らす運動」 ～年次大会開催～



杜多宗務総長

三月一日から二日にかけて、群馬教区「一隅を照らす運動」年次大会が、五百名の檀信徒・住職参加のもと、伊香保町にて開催されました。
最初、物故者回向法要が三浦祐俊宗務所長の導師で行われました。所長は、七月十一日、高崎市の群馬音楽センターにて開催予定の「一隅を照らす運動五十周年記念大会」の概要を含めて挨拶され、その後、伝教大



会場全景



高橋美清師

次いで「歌謡ショー」となり、「自身の曲を歌った後、「懐かしのメロディ」と一緒に歌いましょう」のコーナーとなり、参加者一同声を合わせての大

再任のご挨拶



群馬教区 檀信徒会連盟 会長 神宮 直仁

本年は、三月に一隅年次大会、五月に群馬県農協ビルにおいて教区檀信徒会連盟総会があり、この席上にて連盟役員が選任され、私

は再任されて二年間会長の職を努めることとなりました。事業実施につきましては、檀信徒皆様の特段のご協力を何卒よろしくお願ひ申し上げます。
また、十年間に亘る祖師先徳鑽仰大法会も、根本中堂の改修事業もまだ道半ばであり、事業遂行のためには引き続き皆様のご支援をお願いする次第であります。

一隅を照らそう

群馬天台

発行日 令和元年8月1日
発行所 尾町1261
高崎市(362)5620
天台宗群馬教区宗務所
発行人 祐俊 優
編集者 興 三
印刷所 株式会社
印刷 印刷 式
芝入印刷 式
TEL.027 (253) 4937

合唱となりました。
第三講は、南前橋部極楽寺支部長の小林玄順師が、「一隅」支部活動を報告された。
当支部では和讃と舞踊を中核とし、「花和讃」は市の郷土芸能に登録され、近所の小学生を集めて半年間練習して、数年に一度大会に出場している。
また、郷土カルタには「けやき千年極楽寺」と読まれ、境内の堀ではカワセミが枝に止まり、山林には鷹が飛来している。
薬師縁日には、多くの人が参詣し、本堂では露の団娘さんの落語・大治郎さんの曲芸が披露され、

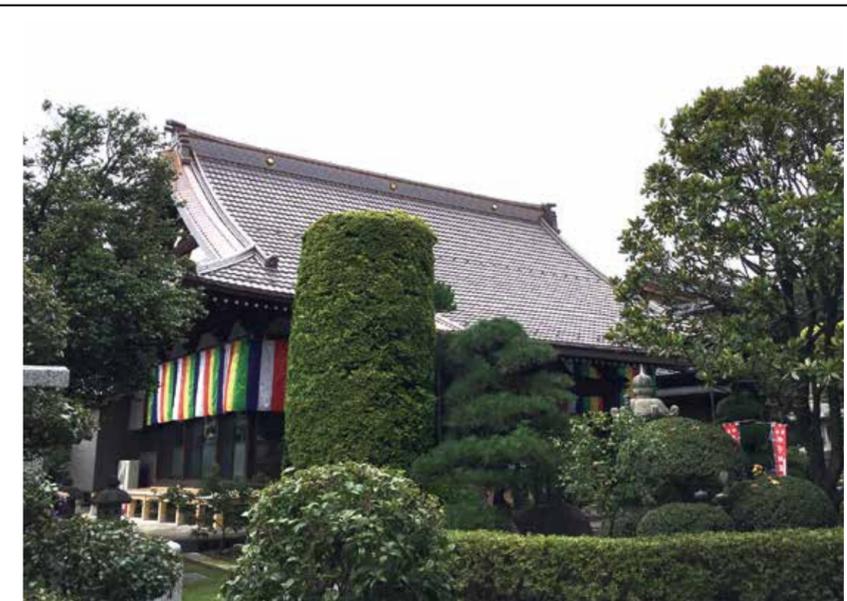
令和元年于蘭盆によせて
宗務会議員 綾小路 乗俊
昨年の議席欠員に伴う補欠選挙で宗務会議員になりました西前橋部の綾小路乗俊です。
群馬教区は定数2議席ですので、高崎部の原徳明議員と一緒に活動しております。
以前は教務主任でしたので、担当の檀信徒会また伝道師会の皆様には、大変にお世話になりました。今後とも宜しくお願いいたします。さて、平成から令和に代り、初めてのお盆を迎えます。
そもそもお盆とは、ご先祖様や亡くなった人達が浄土から戻って来るといわれ、ご先祖様や亡き人と共に過ごして供養をする期間をお盆と言います。
起源は盂蘭盆経という経典に書かれています。

寺として地域に親しまれている。この大会で、一隅運動に十七万九千七百五十円の寄付金があったことを報告申し上げます。
内容は、お釈迦様の弟子、目連が、亡くなった母がどんな生活をしているのかが気になって神通力で覗いてみたところ、素晴らしい世界に居ると思いきや、餓鬼道に落ちて苦しみの日々を送っており、お釈迦様に相談したら「雨季の修行が終わる七月十五日に、疲れきつて多くの功徳が生まれ、その功徳で母も救われるだろう」と言われ、目連が言われた通りにしたら母は救われたそうです。
この説話が元で先祖供養の為に供物を供える行事、お盆が生まれたと言われています。
日々忙しく生活していると、ゆつくり手を合わせる時間が取れないと思いますが、令和元年のお盆の期間、ゆつくり手を合わせる時間をつくってみてはいかがでしょうか？
素晴らしいお盆様をお迎えになられますよう祈念申し上げます。

寺院だより

西前橋部・昌樂寺

「本堂改修円成」



銅板葺きとなった本堂

昌樂寺（綾小路乗正住職）では、七月五日に本堂改修工事の完了を記念して法要が営まれました。工事は、本堂屋根を瓦葺きから銅板葺きへ改修し、内陣・回廊・仏像の修理・エアコンの設置等でした。法要は、檀信徒による「天台のおつとめ」の唱和、次いで「天台雅楽会」による雅楽の奉納、部内寺院住職による施餓鬼会法要と続き、檀信徒は工事の完成を祝い、先祖供養の功徳を頂きました。

北前橋部・珊瑚寺

「地藏堂平成の大改修落慶」



落慶した珊瑚寺地藏堂



修復中の地藏堂

祖師先徳大法会 伝教大師御生誕1250年 東国巡錫1200年記念



○北前橋部 明聞寺 青柳 興裕 住職

予告
伝道師補任祖山研修会
十月十二日～十月十四日
檀信徒祖山参拝研修会
九月十七日～九月十九日

群馬天台青年会 創立五十周年記念式典開催



竹田暢晋群馬仏青会長



参加者による万歳三唱

群馬天台青年会（竹田暢晋会長）では、この度創立五十周年を迎え、教区宗務所長を始め、各会々長、教区議員、歴代の仏青会長のご臨席のもと、記念式典を行いました。
冒頭、竹田会長は挨拶の中で「歴代会長や諸先輩の築き上げてきた青年会を、後世に伝えるのが役目。いつまでも伝教大師様の御心を伝えて行きます」と述べ、これから先、百年・二百年と続けていく決意を話しました。

一隅を照らそう



高崎部 満勝寺 原 徳明 師



西前橋部 常圓寺 綾小路 乗俊 師

新住職紹介



西前橋部 東漸寺 河合 乗信 師

平成三十年
十二月三日

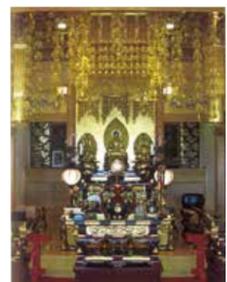
群馬教区選出宗議会議員



天王寺本堂

【寺院沿革】
当寺は、天川山大寶院天王寺と号し、阿弥陀如来を本尊に祀ります。
承和二年（八三五）三月、尊

祐法印により開基、年月を経るにつれ衰微しましたが、慶長二年（一五九七）六月、祐尊法印によって再興され、明治十四年（一八八二）十一月には、総



本尊 阿弥陀如来

【寺名の由来】
寺名の「天王」は、市神の牛頭天王（ごずてんのう）神仏習合における神。疫病の流行を鎮めるため祇園・八坂神社等に祀られたを指し、明治の神仏分離まで、寺の北方にある八坂神社の別当寺（べつとうじ）神社境内に建てられ、神社の祭祀を

【地元史書の記述】
明治十六年ごろ記された『天川村治草考』によると、「古来ヨリ書画宝器等ノ宝物数多アリシト雖モ文政十二年十一月の火災ニテ悉皆消滅スト云ヘリ」とあり、文政十二年（一八二九）の火災により、寺の宝物のほとんどが焼失してしまつたようです。また、現在の住職は二十二世ですが、これは寺を再興した、祐尊法印以降の代数と思われま

【本堂天井画】
新本堂の天井には、宮絵師・安川如風の筆による、「龍雲図」、「鳳凰図」、「迦陵頻伽（かりようびん）が浄土に住む仏を称える美声の霊鳥」図、「宝相華（ほうそう）げ」花々の美しい要素だけを抽出して表現された吉祥文様「図」等が描かれ、参拝の檀信徒を見守っています。
また、境内には十二支守り本尊の石仏が安置されている他、参道には十八羅漢像が祀られています。
（現住・青柳行暢記）



天井画



龍雲図

シリーズ群馬の寺々 第四十四回

北前橋部
天川山 大寶院

天王寺

前橋市文京町四一九一十三
第二十二世住職 青柳行暢

昭和二十四年に、先代住職・興行大和尚によって建立された旧本堂は老朽化が進み、平成二十二年に総代・世話人会議により全面改築を行うことが決定し、寺檀一体となつての協力のもと、平成二十二年六月、現在の新本堂が落成いたしました。

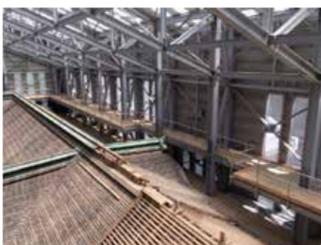


覆屋がかけられた根本中堂

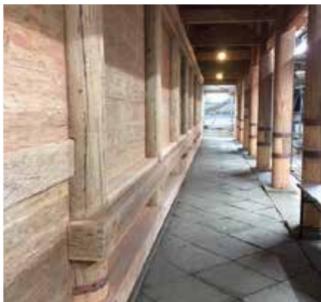
根本中堂大改修

平成二十八年から十年計画で実施されている比叡山根本中堂の大改修は、本堂の銅板葺き、廻廊のとも葺きを葺き

直し、全体の塗装彩色等の修理が行われます。現在は覆屋が完成し、銅板や彩色がはがされて、修理着手の前段階の印象を受けました。



葺き直しを待つ中堂屋根



彩色がはがされた廻廊

一隅を照らそう

群馬教区 檀信徒会連盟・伝道師会連盟

平成31年度 総会並びに合同研修会を開催



開会式風景



磯村良定師



会場の様子



根本中堂改修報告

六月六日、群馬県農協ビルにおいて、群馬教区檀信徒会連盟・伝道師会連盟の総会が開催されました。
何れの連盟も、事業・決算報告がなされ、新年度事業・予算案が承認され、檀信徒会連盟では、新役員が選任されました。各総会終了後、同一会場に集合し、法業の後に合同研修会となり、「延暦寺慶讃事業」について、延暦寺一山無量院住職磯村良定師が講演されました。
その核心は、平成二十八年から令和七年までの十年間における予算五十億四千万円の延暦寺根本中堂保存修理事業を、写真と交えた進捗状況の報告と、資金協力への感謝であり、引き続きの協力支援を要請されました。
この事業は、建物の保存修理ですが、それは「伝教大師のご精神・祈り」の継承であることを強調していました。



境内参拝



渡辺玄晃師

第四回 浄法寺伝教大師報恩法要 並境内清掃奉仕活動開催

後、渡辺玄晃布教師会副会長による「伝教大師の生涯」の講演。最後に浄法寺境内参拝を行い、宗祖伝教大師のご遺徳を感じました。



報恩法要

毎年恒例になった「浄法寺清掃活動」が本年も五月二十一日に開催されました。
前日からの雨模様で、清掃については、今年は見合わせ。開会式に続いて三浦祐俊宗務所長導師による「伝教大師和讃」の法業、原徳明宗議会議員、緑野智彦浄法寺住職による挨拶の

一隅を照らそう